



土門大士

色鉛筆作家／どもんだいし

profile●1981年、宮城県仙台市生まれ。2005年、東京造形大学デザイン科卒業。2005年、東京造形大学卒業制作ZOKEI賞受賞。2017年、第1回E&Cオープンコール受賞。2020年、第18回千葉市芸術文化新人賞受賞。2009年より仙台、東京等で個展を開催。2021年は、千葉市文化センターで「土門大士展」を開催する。千葉市在住。個展等の詳細は、こちらから土門大士HP <http://daishidomon.under.jp/>

心を保ち、人とのつながりを生む
人の心を動かす「絵の力」を信じて

会社員兼画家として創作活動を続け、2020年に第18回千葉市芸術文化新人賞を受賞。色鉛筆作家の土門さんに、作家になるきっかけや創作活動に込める思いなどを伺いました。



子どもの頃から絵を描くことが好きだったのですか？

子どもの頃は、暇さえあれば絵を描いているくらい好きでした。でも、小学校4年生からバスケットボールを始めてから、中学校高校と部活動で忙しくなって、自然と描くことを止めてしまったんです。

でも、高校生のとき一人で旅した広島で、ヒロヤマガタさんが手がけたパッケージデザインの展示を観て、こんな仕事も面白そうだなと思い、美術大学への進学を考えるようになって。美大では4年間デザインの勉強をして、卒業したらデザイナーになろうと思っていました。

プロになろうと意識したのはいつ頃ですか？

大学では主にパソコンを使ったデザインを学んでいたのですが、絵は一切描いていなかったんです。でも、そのパソコンがしょっちゅう壊れるのでとうとう嫌になって。仕方なく手で描くようにしたら、小さい頃の記憶が蘇って、絵を描くことの楽しさを思い出したんですね。

ラフを描くときに色鉛筆を使っていたんですけど、このまま色鉛筆だけで絵を仕上げたら面白いなと思って、色鉛筆画を描くようになりました。大学4年の卒業制作で描いた色鉛筆画で「ZOKEI」賞という賞を受賞したことが、作家活動が続けていこうという気持ちを後押ししました。

大学卒業後は就職されたんですね。

卒業後は、広告代理店にデザイナーとして入社して、今は営業の仕事をやっています。大学時代に将来のことを考えたとき、経済的に安定したなかで創作活動を続けたいと思い、サラリーマンになろうと決めました。

今は創作活動に費やす時間が限られていますが、絵を描くことだけに時間を使える人に負けてられないという気持ちで取り組んでいます。



サラリーマンと作家の二足のわらじでメリットを感じることはありますか？

仕事をしていると心が沈むようなこともあるんですが、そんなときに絵を描くことで、心のバランスを保っていると感じています。描いているうちに、心のモヤモヤが晴れて、正常なバランスに戻るというか。僕にとって、絵を描くことは、ないと困るものなんですよ。そして、その日々のモヤモヤが、創作活動の原動力になっている部分もあります。

土門さんの作品のセールスポイントはなんですか？

色鉛筆作家と名乗ってはいますが、実は色鉛筆で描くことにそれほどこだわっていないんです。僕の作品は、日々抱く感情や思いを線や色で表しているんですが、制作途中はどんな作品に仕上がるかわからなくて、自分でも楽しみなんです。僕自身が楽しみながら描いた作品を観て、楽しんだり何か感じたり、共感してもらえたらうれしいなと思います。

最近の活動内容を教えてください。

昨年今年と、コロナの影響で実現しなかった個展もいくつかあるのですが、8月27日(金)から29日(日)まで、千葉市文化センターで個展が開催できることになったので、今は展示用の作品の制作などを行っています。

最近のことではないのですが、一昨年仙台の小学校で、子どもたちと一緒に壁画を描くという活動をしました。夏休みの終わりの4日間を使わせてもらって、子どもたちには内緒で音楽室の黒板にチョークアートを描いて、黒板を覆った幕を子どもたちの目の前で外したんですよ。みんなサプライズにわーっと驚いて喜んでくれて、楽しい経験でした。そのあとの壁画制作も、とても楽しかったです。

アートの魅力とはどんなところにあると思われますか？

作品を観て、心が落ち着いたとか言っていたことがあるんですが、アートには、そんな風に人の心に影響を与える力があると思います。

それから、個展をやるときや仙台の小学校でのイベントのときも思ったことなんですが、作品を飾って観せることで人が集まる。人とのつながりを生むことも、アートの魅力のひとつだと思います。

今後チャレンジしたいことはありますか？

最近、箱型の木片に色鉛筆で絵を描いた作品作りが楽しいので、それを進化させていきたいと思っています。作品の発表やイベントなどでは、子どもたちと絵を描くことがすごく面白かったので、子どもたちと一緒にまた何かできたらなと思っています。

将来美術作家になりたいと思っている人へアドバイスをお願いします。

絵を描き続けるのに必要なことは、「情熱」だと思っています。情熱を強く持ち続けることで、考えることも、創作に役立つことをキャッチするアンテナも、違ってくると思うんです。これは、創作活動を続けるうえで、自分自身にずっと言い聞かせてきたことでもあります。

千葉市民へメッセージをお願いします。

絵を観たり飾ったりすることで、心に余裕が生まれると思うので、コロナ禍のこういうときだからこそ、絵にふれる機会を増やしてほしいなと思います。